令和５年度 総合型選抜Ⅰ期 問題（課題作文）

作業療法学科

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

「作業的公正」は、Townsend と Wilcock によって提案された概念であり、人間はさまざまな種類の意味のある作業に従事できるための平等な機会や資源を有するものであると述べている。

また、作業的公正が侵されている状態を「作業的不公正」とし、その中でも老健[注1)]で生じる可能性のある作業的不公正の状態には「作業疎外」「作業剥奪」「作業周縁化」「作業不均衡」がある。

「作業疎外」とは、本人にとって意味や価値のある作業の経験ができる権利が失われている状態のことを示す。作業疎外は、意味がないという感覚、自己統一感の喪失感、空虚感、孤独感、疎外感を長期にわたって経験することと関係している。

「作業剥奪」とは、本人の健康やソーシャルインクルージョン[注2)]のための作業が制限された時に起こり、自分ではどうしようもできない要因のために、自分にとって必要なあるいは意味のある作業への従事を長期間にわたってできない状態のことを示す。

「作業周縁化」は、作業に参加するといった日常的選択や意思決定をすることができなくなる状態のことを示す。またそういった状態が、法律や社会的規制、宗教上の規定などによってではなく、習慣や伝統、公式性のない行動規範によって引き起こされた場合に使用される。

「作業不均衡」は、ある特定の個人は持て余すほどの作業機会を得ているにもかかわらず、一部の人には限られた作業機会しか与えられないために、個人間において作業の過不足、ともすると作業がないということが発生している状態を示す。

（中略）

安藤さん（仮名）は、老健Ａに２年１カ月間入所している70歳代後半の女性である。要介護度は２であり、スタッフからも「そろそろお家へ帰る潮時じゃないかな」と言われたりするものの、「まだちょっと自信がなくて」と自宅で１人暮らしをすることに迷いがある入所者であった。安藤さん自身は「家事ができなくなっちゃって。お洗濯とか、お掃除とか大好きだったのに。動くことができないのが一番の悩みね」と語り、自宅で家事をやりたいが、自信がない様子であることが分かる。安藤さんにとって「家事」が大切な作業であることは明らかだが、「老健での家事」についてはどのような状況だったであろうか。

「（家に帰ったほうが）やってみたいことはたくさんありますよね。ここ（老健）は何も…やることはないですもんね。お洗濯は自動で全部乾燥までしてくれるんですけどね。畳むのはリハビリでやっているんですけど、干すっていうのが、どうも難しいと思って。（本当は乾燥機は）かけたくない。でも干すのは無理なので諦めたんです。もうちょっとこう、似たような動作っていうか、仕事がね、そこらにあればね、ちょこちょこやれるけど、それはないんですものね。（やろうとすると）足元が危ないからって、みんな（スタッフ）に嫌だって言われるし。そういうのはね、こういうところではないのが当たり前なんですけど」

注1)：老健（介護老人保健施設）

注2)：ソーシャルインクルージョン（全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うという理念）

設問１　あなたの周りに存在する作業的不公正（作業疎外・作業剥奪・作業周縁化・作業不均衡）の一例を取り上げ、その内容を説明しなさい（100字以内）

設問２　安藤さんの事例において、①あなたは何が問題だと考えるか、②対人援助職としてどのように対象者に関わろうと思うか、できるだけ具体的に述べなさい（700字以内）

出典：真田育依．作業科学で視る介護老人保健施設―作業的公正の視点を通して．臨床作業療法 Vol. 16，No. 5，2019.